

## 平成 30 年 10 月 27 日（土）～28 日（日）恵那山山行報告

### 食欲の秋と紅葉の山行（2018 年）

#### 1. コースタイム

10/27（土）

奈良（6：00）～近鉄大久保駅（6：40）～名神尾張一宮 SA（7：00）～中津川 IC～萬岳荘（11：00）

萬岳荘（13：00）～富士見台（13：35）～萬岳荘（14：15）

10/28（日）

萬岳荘より車で移動（5：30）～追分登山口（5：50）～鳥越峠（6：30）～大判山（7：20）～避難小屋（10：30/11：20）

恵那山山頂（11：40/12：00）～登山口（15：35）～帰奈良 21：30

#### 2. 参加者：K 岡・I 田・S 木・Y 村、T 田（頂上より）・I 藤

#### 3. 概要

中部地区にお住いの S 氏から 5 月の残雪期に登られた神坂峠ルート～恵那山の話を知りました。また K 氏・I 氏からも、随分前にこのコースの展望が素晴らしいという話を聞いていました。今回「恵那山の最盛期の紅葉を愛でる」山行を S 氏が計画してくださり登ることになりました。

週末の土曜日が寒冷前線の通過で天気が荒れる予報で心配したのですが、午後から回復し、翌日も高気圧に覆われる予報だったので予定通り出発することになりました。

山小屋は富士見台高原の登山口にある萬岳荘。おしゃれな三階建てで一階が駐車スペース、二階が炊事場並びに食堂談話室、三階が寝室（5 室で 45 名が収容可能とのこと）

早朝は雨模様であったが高速道路走行中は天気が急速に回復していったが、1700m の山中にある萬岳荘に着いたときは雨がぱらつきガスと強風の悪天候。しばらく様子を見て天気の回復を待ったが良くならないので、本日予定の横川山を取り止め途中の富士見台高原までの往復 1 時間の足慣らしのハイクとしました。ガスが掛かり展望はゼロ。緩やかなササの高原を、6 月にはササユリが咲き乱れる話しなどを聞きながら歩いていると一瞬ガスが消え、目の前の稜線が鮮やかに現れ感激の声があがった。

小屋に帰り、2 階～3 階の階段の踊り場に設置されたクライミングウォールで遊ばせていただき皆でわあわあ言いながら楽しんだ。

少し早いですが 4 時過ぎから食欲の秋を満喫する食事にかかる。山小屋で定番になっているすき焼き、精肉一人約 200 グラム。すき焼きの材料の野菜類、キノコ類、豆腐、シラタケ、麩などなどを 2 回に分けてコンロで炊き食卓へ。美味しい美味しいの連呼。しんどい、腹パンパン、三段腹を服の上からさすりながら大笑いの食事でした。

気温は下がり 5℃前後。ストーブで暖を取りながら談話室で休憩して早々に就寝した。

翌 28 日は 4:30 に起床。S 氏が準備して下さった味噌煮込みうどんをいただき、体が温まった 5:30 車で登山口へ。前日に管理人さんから、一般ルートは 1569m の神坂峠登山口からであるが、林道を標高約 200m 下ったところに追分登山口 (1347m) があり、そこからなら往復一時間ほど短縮できるという嬉しい話を聞きました。

本日のコースタイムは 10 時間とロング、そこに日が短いこともあり、この推奨コースを取ることにしました。登山口よりヘッドランプを点けてゴロ石の急坂を登る。その先は真っ赤に落葉した絨毯の登山道を歩く。標高差 200m を登りきると鳥越峠に着き、一般ルートの稜線に出会う。笹の深い登山道をアップダウンしながら美しい紅葉や遠くの南アルプスの山並みを楽しみながら歩くが、最後の急坂約 1 時間は必死のバッチでした。急坂を登りきると約 30 分で山頂だが風が強くて急に寒くなってきた。しかし山頂の避難小屋辺りでは小春日和を思わせるポカポカ陽気で、それぞれのパーティーが昼食をとっていた。

S 氏が準備して下さった餅入り野菜雑炊を Y 氏も一緒に作って下さり、一人 2 杯大満足で本当に美味しかった。

そのあと頂上まで 20 分。途中、思わぬ悲しいニュースが。ご高齢の登山者が転んで心肺停止されているとのこと。

心臓マッサージで蘇生中だが AED が小屋に無いか探しに走ってくる若者。小屋には電源がなく AED は見かけなかったと I 氏が告げました。それから随分経過して、ヘリの音を聞き心の中で助かるようにと祈りました。

山頂展望台付近は、周囲に背の高いトウヒやツガの針葉樹林があり、あまり展望はよくないが、少し手前のところから真っ白な頭の富士山が遠望できた。

恵那山のピークにて全員で記念写真を撮り帰ろうとした時に、今度は嬉しいサプライズ。K 氏がいま到着した女性とにこやかに話している。女性がサングラスを外され、初めて長野県に在住の当山岳会 T 氏であることが分かりビックリ！「メールの山行予定で恵那山に来られることになっていたのも、会えるかもと思って同じコースを登ってきました」と何と嬉しいお言葉。みんな感激し喜び合って全員で再び記念写真。

T 氏はまだ食事を取っておられないとのことで、私たちは帰奈良の予定もあったので先に下山することにしました。

暫くすると、T 氏が追いつき途中まで話しながら一緒に下山することになりました。

食欲の秋と紅葉を楽しむこと以外に、更に楽しいことに出会った一日でした。